

令和 4 年 6 月 22 日現在

機関番号：64401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23127

研究課題名（和文）インドネシアにおける華人キリスト者の人類学的研究：「中華性」と対峙する日常

研究課題名（英文）Anthropological Study of Chinese Overseas Christians in Indonesia: Christian life to "Chineseness"

研究代表者

Mori Albertus Thomas (Mori, Albertus-Thomas)

国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・外来研究員

研究者番号：70849835

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はジャカルタの華人キリスト者を通して、彼らは「華人」というカテゴリーを維持しつつも、日常生活においてキリスト信仰をもとに中国的文化を否定するという現象を考察する予定であった。しかし新型コロナウイルスの影響により、本研究の主な手法であるフィールドワークを実施できなかった。そのため本研究は一旦執行期間を延長したが、2022年2月の時点まで渡航制限が依然に解除されなかったため、本研究を終結して研究費を返還すべきと判断した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は新型コロナウイルスの影響により実施できなかった。

研究成果の概要（英文）：This study was intended to examine, through Chinese Christians in Jakarta, the phenomenon of their denial of Chinese culture based on their faith in Christ in their lives, even though they maintain the category of "Chinese Overseas". However, due to the effects of the new coronavirus, we were unable to conduct the fieldwork that was the main method of this study. For this reason, this study was temporarily extended, but since the travel restriction was still not lifted until February 2022, it was decided that this study should be terminated and the research funding returned.

研究分野：文化人類学

キーワード：華人キリスト者

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1. 研究開始当初の背景

中国に出自を持ち、中国以外で暮らしている「華人（Chinese Overseas）」への研究は、往々にして中国的文脈との連続性をもとに彼らの「中華性（Chineseness）」に焦点を当てることが多い。しかしその中では、プロテスタントの信者たちの存在の前提は中国的文脈に依拠しないことがよく無視される。他方、そのような「華人キリスト者」は20世紀半ばから越境的なネットワークを積極的に構築して影響力を増やしつつある。彼らが多く暮らしている東南アジアでは、国民国家の統合問題に強くこだわる国々は少なくない。特にインドネシアでは、1967年から2002年まで、華人の言語文化が公的領域で大きく制限されていた。そのため、禁令が解除された後、中国的文化の復興運動が現れた一方、かつて宗教活動の蔭で言語や伝統文化を大量に保存した華人キリスト者たちの大半は、そのような運動と距離を置く現象が観察された。

#### 2. 研究の目的

インドネシアの華人キリスト者が日常実践の中で如何に「中華性」と対峙しているかを考察することにより、越境者研究によく見られる出出国とホスト国との二項対立的関係性を捉え直すことができる。

#### 3. 研究の方法

2019年10月から2020年1月までは文献調査を進めながら、インターネットを介して現地協力者と話し合い、具体的なフィールド先およびインタビュー調査の対象者を選定してきた。2020年2月から12月まではジャカルタを中心にフィールドワークを行い、さらに関連団体や個人を調査するためにクアラルンプール、香港、台北にも赴く予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、2020年1月末からすでに一部の調査予定地において国際渡航制限が発令されており、後に日本政府も外国籍住民の再入国を禁止したことなどにより、フィールドワークの実施が不可能になった。それに対して本研究は執行期間を2022年3月まで延長することを申請したが、2022年2月の時点で依然渡航制限が解除されず、特にインドネシアとマレーシアの調査許可の申請受付も再開されなかったため、本研究はインターネットを介して一部の協力者とのコミュニケーションの維持にとどまり、主な研究手法であるフィールドワークを実施する見込みが全く立てられなかった。そのため、本研究を2022年3月で終了させ、経費を返還することとした。

#### 4. 研究成果

本研究は予定した主な研究活動を実施できなかった。ただし、インターネットを介してジャカルタの協力者とのコミュニケーションを維持していたため、彼らの紹介により、調査対象である各教会やミッション系機構の関係者の中、10～30代の人々が集まるSNSのグループ合計6つに参加してかつ日常的なチャットを調査した。結果として、これら若い世代の華人キリスト者たちは伝道大会などの宗教イベントへの積極的な取り組みを立身出世委などの自己実現のツールとして考える傾向があると分かった。実際に行われる宗教実践の空間にアクセスしないとこの傾向性を検証できないが、今後渡航制限および調査許可の制限が解除された暁に、この傾向性への把握は、本研究事業と同じ方向の研究活動に資すると考えられる。それに関連する考察作業は、

本研究事業が終了した後も継続してかつ公表する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 アルベルトゥス＝トーマス・モリ
2. 発表標題 華人キリスト者の宗教実践よりアンチ・ディアスポラの文脈を展望して
3. 学会等名 日本華僑華人学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------